

4—13—0

(包紙)

「安永五年申年

御書出并^ニ天明五年三月二日
午御書出し」

4—13—1

(端裏書)

「安永五年三月」

乍恐奉願口上之覚

一此度親九右衛門義隱居被仰附私江家続魚鳥

口錢取共^ニ被為仰附難有仕合奉存候、然所此度

被為仰出候御書出シ之内問屋共手前月々

帳面入念改ヲ請、右御定之口錢相立候様被為

仰附品^ニ候處、右帳面改之儀何方より改ヲ請申儀^ニ

御座候哉、此義私より相改候様被為仰附被為下候ハ、

第一御運上銀之御取べり并私江家錄^ニ被為遣候

三歩口錢取べり^ニ茂相成候義何卒私より相改候様奉願候尤月々之改^与被為仰出候得共日々之吟味^ニ而無御座候

而ハ表向一通り之壳立之外莫大之陰仕事も出来候

物^ニ御座候得^者毎日私より見届人を出シ吟味仕度奉存候并御役人様方帳面御改之儀^ニ御座候ハ、私より差上ヶ

入御覽^ニ御運上銀之儀^茂無滯御上納仕度奉存候

御裁許被為仰附無間^茂儀恐多御願^ニ奉存候

得共右日改之儀偏^ニ奉願候、此段宜様御執成可被下候

奉願上候、以上

大谷政太郎 (印)

安永五年
申三月日

村瀬庄左衛門様
熊沢小八郎様